

ふにかちにけり、二の宮位につかせ給ふ、清和の帝是也、後には水のをの天皇と申き、其よりして山門にはいさゝかの事にも、ゑりやうなづきをくだけば、二帝位につき、そんいちけんをふつかば、菅相納受し給ふ共つたへたり、是のみや法力にても有けん、其外は皆天照大神の御はからひ也とぞみえたりける、

〔源平盛衰記 二十四〕大嘗會儀式附新嘗會事

延曆寺衆徒等誠惶誠恐謹言、略中 所謂惠亮擢腦尊意振劔、凡捨身事君、無若我山、

○按ズルニ、平家物語ノ説ハ、信ズベカラザルコトナレドモ、廣ク世上ニ流傳スルモノナレバ、姑ク此ニ掲ケタリ、

〔大鏡一融〕此御門の東宮にたゝせ給ふほどは、いとさゝにくゝいみじき事どもこそ侍れな、これ  
はみな人のまろしめしたる事なれば、事もながしとゞめ侍りぬ、

〔大鏡四右大臣師輔〕此后安村上の御腹には、式部卿の宮平爲こそは、冷泉院の御次にまづ東宮にも  
たち給ふべきに、西宮殿高明の御むこにておはしすすにより、御おとゝのつぎの宮融圓にひき  
こされさせ給へるほどなどの事どもいとみじく侍り、そのゆゑは、式部卿御門にゐさせ給ひ  
なば、西宮殿の御ぞうによの中うつりて、源氏の御さかえになりぬべければ、御をぢたちのたま  
しひふかく非道に、御おとゝをばひきこし申させたてまつらせ給へるぞかし、世の中にも宮の  
中にも、殿ばらのおぼしかまへけるをばいかでかはしらん、次第のまゝにこそはと、式部卿宮の  
御事を思ひ申たりしに、俄に若宮の御くしかいけづり給へなど御めのとたちにおほせられて、  
大入道殿藤原兼家御車にうちのせたてまつりて、北陣よりなんおはしましけるなぞこそつたへ  
うけ給はりしか、されば道理あるべき御かたびとたちはいかゞはおぼされけん、略中 そのほど  
西宮殿御心ちよないかゞおぼしけんさてぞかし、おそろしくかなしき御事どもいできにしは、